

イチベレー・ツアルギ

1950年サンパウロ生まれのイチベレーは、作曲家の父アントニオ・ブルーノ・ツアルギによって音楽の道へと導かれる。そして、ヘイ・カレリグループの一員としてプロデビューし、サンパウロ内陸部を中心に演奏を行う。1960年代後半から1970年代初頭にかけて、Xangó Três や Bossa Jazz Trio の活動に参加。ちょうどその頃、音楽教師であるニコライ・チェヴィチェンコの教えを受ける。

1977年、現在も活動を共にするエルメート・パスコアルグループに加入。彼の輝かしい音楽的キャリアが始まる。1982年からグループの一員としてヨーロッパ、南北アメリカ、日本ツアーを行い、フランス、ドイツ、スイス、アメリカではエルメートのワークショップにも参加する。エルメートのグループでは9枚のアルバム（Zabumbebum a, Montreaux ao Vivo, Celébro Magnético, Hermeto Pascoal e Grupo, Lagoa da Canoa, Só não toca quem não quer, Brasil Universo, Festa dos Deuses, Mundo Verde Esperança）を録音。1992年には、作・編曲家としてのキャリアをスタートさせ、ジウソン・マセードの”Variasons”、歌手のイヴェッチ・ソウザの”De onde vens”、クアルテット・マオガニの”Cordas Cruzadas”他、様々なアルバムに参加する。

1999年、プロアルチ音楽学校のワークショップでイチベレー・オルケストラ・ファミリーを結成する。2001年に2枚組のファーストアルバム”Pedra do Espia”を発表し、作・編曲家、指揮者としてクレジットされる。2005年11月にはエルメート・パスコアル作曲の27曲が録音された2枚組セカンドアルバム”Calendário do Som”を発表。同年、作曲家としての功績が称えられ、Vitae 財団より助成金を与えられる。2006年にはセカンドアルバムが認められ、Natura Musical の企画でブラジル、モンテ・ヴィデオ、ブエノス・アイレスツアーを行う。また、ペトロブラス社によってプロアルチ音楽学校で行われたワークショップの中で作られた曲で構成されたCDブックが発売される。2008年には、Projeto Pixinguinha によりサードアルバム”Contrastes”を録音。

2012年には、イチベレー・ツアルギグループとグループ名を変更し、リオ・デ・ジャネイロ市の後援のもと、アルバム”Identidade”を発表。現在は、ブラジル内外でツアーやワークショップを行う傍ら、マラカトゥ・ブラジル音楽学校の教師としてエルメート・パスコアルによって提唱される Música Universal を普及しながら、独自の理論と共に才能ある音楽家の育成に力を注いでいる。

2013年7月のヴェニス・ジャズ・フェスティバルの Música Universal の夜にイチベレー・グループとして公演を行い、以後アメリカ人のビル・スミス氏によるプロダクション Eye for Talent に所属している。